

中学校 第3学年	題材名	箏に親しもう「六段の調」(冒頭)		
	教材名	「六段の調」(冒頭) (作曲：八橋検校)	時間	4 時間

■題材の目標

箏の演奏を通して日本の伝統音楽の特徴を捉え、音色・調子・速度・間などを感受しながら「六段の調」をより高度な箏独特の奏法を織り交ぜて思いや意図を持って表現することを目指す。また、唱歌を歌うことにより箏曲の伝統的な学習法を知り、箏の音色や奏法といった特徴についてより深い理解を促すことがねらいである。

■学習指導要領との関連

- A 表現 (2) 器楽 ア 曲想を味わい、曲にふさわしい表現を工夫して演奏すること
イ 楽器の特徴を理解し、基礎的な奏法を生かして演奏すること。

【共通事項】音色、速度、旋律、強弱、間、序破急

■教材観

「六段の調」(作曲：八橋検校)

箏曲の作品の中で最も有名な曲の1つ。江戸時代に今日の箏曲の創始者の八橋検校が作曲したと言われている。ここではその冒頭の5小節を演奏する。5小節の中でも親指を使った「コロリン」をはじめ、人差し指や中指を使った「かき爪」「割り爪」といった奏法や、左手の「引き色」「後押し」といった箏の特徴的な奏法が使われており、箏に対するより深い理解を促すには適した教材である。また、間を保って弾いたり余韻を変化させるタイミングを意識するなど、実際の演奏の細かなニュアンスをイメージすることが大切であるため、唱歌を歌うことの必要性をより感じることができる。

■ヤマハデジタル音楽教材「箏授業」を使用した指導計画 (4 時間)

※第1学年で「さくらさくら」を通じて箏の基本的な学習を実施していることを前提とする。

学習内容		めあて	指導上の留意事項
第一時	■箏の演奏を鑑賞する。 ■箏の基本的な知識を復習する。	箏の基本的な知識を復習し、日本の伝統音楽の特徴を学ぼう	・ヤマハデジタル音楽教材「箏授業」(以下「デジタル教材」と記載)を使用し「六段の調」を鑑賞させ、箏の音色や箏曲の特徴を復習させる。 ・デジタル教材を提示しながら、箏の各部の名称や座り方・構え方など基本的な知識について復習させる。 ・「さくらさくら」初級を演奏させ、箏を演奏するための基本的な知識を思い出させる。
	■「六段の調」(冒頭)の1～2小節目を演奏する。	いろいろな奏法を使いながら「六段の調」(冒頭)の1～2小節目を弾いてみよう	・デジタル教材で「六段の調」(冒頭)の演奏を聴かせ、冒頭部分に使われている奏法を確認させる。 ・デジタル教材で唱歌について復習させ、「六段の調」(冒頭)の唱歌を歌わせる。 ・デジタル教材を提示しながら楽譜の読み方について復習させる。 ・デジタル教材を提示しつつ、「六段の調」(冒頭)の1～2小節目について、使用する奏法や旋律のまとめり(「かき爪」、「引き色」、「割り爪」、「後押し」、「コロリン」)を適宜確認させながら弾かせる。 ・「六段の調」(冒頭)の1～2小節目をゆっくりとしたテンポで弾かせる。
第三時	■「六段の調」(冒頭)の残りの部分を演奏する。 ■「六段の調」(冒頭)を通して演奏する。	「六段の調」(冒頭)を通して弾いてみよう	・デジタル教材を提示しながら「六段の調」(冒頭)の3～5小節目を弾かせる。 ・大型モニターにデジタル教材を映し、「六段の調」(冒頭)をゆっくりとしたテンポで通して弾かせる。 ・各自のタブレット端末でデジタル教材を見ながら自分の苦手箇所を練習させた後に、「六段の調」(冒頭)を通常のテンポで通して弾かせる。

第四時	■模範演奏と自身の演奏とを聴き比べ、表現の工夫をする。 ■「六段の調」(冒頭)の演奏をグループで聴き合い評価し合う。	より良い音色や響きを出すための工夫をしながら、「六段の調」(冒頭)を演奏しよう	・デジタル教材で「六段の調」(冒頭)の模範演奏を鑑賞させ、自分の演奏と聴き比べて気付いたことをワークシートに記入させる。 ・模範演奏のような箏らしい音色に近づけるために、個人練習を通じて表現の工夫をさせる。必要に応じて、各自のタブレット端末でデジタル教材を参照させる。 ・各グループで「六段の調」(冒頭)を通して演奏させ、相互評価させる。
-----	--	--	--

■実際の指導

[教材]

「六段の調」(冒頭) (作曲：八橋検校)

[授業スタイル]

一斉学習、個別学習又は協働学習 (2～3 人に箏が一面の場合)

[使用する ICT 機器]

大型モニター、教師用 PC (もしくはタブレット端末)、ヤマハデジタル音楽教材「箏授業」

※生徒用タブレット端末があると個別学習 (協働学習) が可能

[主な ICT 活用とそのねらい]

- ✓ デジタル教材を使用することにより、向こう指の置き方やいろいろな奏法など、従来では分かりにくかったポイントを視覚的に理解することができる。テンポも変更できるため、ゆっくりとしたテンポから徐々に速度を上げて練習することもできる。
- ✓ 大型モニターにデジタル教材を映しながらそれに合わせて生徒に演奏させることにより、教師が机間を回り生徒のサポートをしたり評価したりすることができる。

[展開]

第一時

- ・学習内容：箏の演奏を鑑賞し、基本的な知識や奏法を復習する。
- ・めあて：箏の基本的な知識を復習し、日本の伝統音楽の特徴を学ぼう
- ・配布物：ワークシート「箏に親しもう 1」(ファイル名：k03_sheet1)

過程	主な学習活動と教師の働きかけ	デジタル教材	留意点
導入 5 分	■単元のめあてを確認する。 箏に親しもう「六段の調」(冒頭) ■本時の学習のめあてを確認する。 箏の基本的な知識を復習し、 日本の伝統音楽の特徴を学ぼう		
50 分 展開 40 分	■「六段の調」を鑑賞させ、箏の音色や箏曲の特徴を復習する。 ■箏の構造と各部の名称について復習し、ワークシートに記入する。 ■爪のはめ方について復習する。 ■箏を演奏するために必要な座り方・構え方を復習する。	・演奏を聴いてみよう - 「六段の調」 ・弾く前の準備 - 構造と各部の名称 ・弾く前の準備 - 爪について ・弾く前の準備 - 座り方・構え方と姿勢	★教師用 PC (又はタブレット端末) を大型モニターとつないで提示。

		■基本奏法をデジタル教材で復習する。 ■デジタル教材に合わせて「さくらさくら」初級を演奏する。	・基本的な奏法 - 基本の弾き方（親指の奏法・1音ずつ） ・「さくらさくら」初級 - 1曲通して弾いてみようの「練習」画面	
ま と め 5 分		■ワークシートに今日の授業の自己評価と感想を記入する。		

第二時

- ・学習内容：「六段の調」（冒頭）の1～2小節目を演奏することにより、箏のいろいろな奏法を学習する。
- ・めあて：いろいろな奏法を使いながら「六段の調」（冒頭）の1～2小節目を弾いてみよう
- ・配布物：ワークシート「箏に親しもう 2」（ファイル名：k03_sheet2）

過程	主な学習活動と教師の働きかけ	デジタル教材	留意点
導入 5 分	■本時の学習のめあてを確認する。 いろいろな奏法を使いながら 「六段の調」（冒頭）の1～2小節目を弾いてみよう ■デジタル教材で「六段の調」（冒頭）の演奏を聴き、冒頭部分に使われている奏法を確認する。	・「六段の調」（冒頭） - 「六段の調」（冒頭）の演奏	★教師用PC（又はタブレット端末）を大型モニターとつないで提示。
50 分 展 開 40 分	■唱歌について復習し、「六段の調」（冒頭）の唱歌を歌わせる。 ■楽譜の読み方について復習する。 ■「六段の調」（冒頭）の1小節目を学習する。 ＜使用する奏法＞ ・かき爪 ・引き色 ■「六段の調」（冒頭）の2小節目を学習する。 ＜使用する奏法＞ ・割り爪 ・後押し ・コロリン	・弾く前の準備 - 唱歌について ・「六段の調」（冒頭） - 唱歌を歌ってみよう ・弾く前の準備 - 楽譜の読み方について ・「六段の調」（冒頭） - 1小節目 ・「六段の調」（冒頭） - 2小節目 ・いろいろな奏法 - かき爪・割り爪 ・いろいろな奏法 - 引き色 ・いろいろな奏法 - 割り爪 ・いろいろな奏法 - 後押し ・いろいろな奏法 - コロリン	★教師用PC（又はタブレット端末）を大型モニターとつないで提示。 ★いろいろな奏法が登場するので、デジタル教材で適宜確認をしながら進める。
ま と め 5 分	■「六段の調」（冒頭）の1～2小節目をゆっくりとしたテンポで演奏する。 ■ワークシートに今日の授業の自己評価と課題を記入する。	・「六段の調」（冒頭） - 通して弾いてみようの「練習」画面（1～2小節目のみ使用）	★教師用PC（又はタブレット端末）を大型モニターとつないで提示。

第三時

- ・学習内容：「六段の調」（冒頭）の残りの部分を学習し、通して演奏する。
- ・めあて：「六段の調」（冒頭）を通して弾いてみよう
- ・配布物：第二時で配布したワークシート「箏に親しもう 2」を引き続き使用。

過程	主な学習活動と教師の働きかけ	デジタル教材	留意点
導入 5分	■本時の学習のめあてを確認する。 「六段の調」（冒頭）を通して弾いてみよう ■第二時の復習として、「六段の調」（冒頭）の1～2小節目をゆっくりとしたテンポで演奏する。	・「六段の調」（冒頭）－通して弾いてみようの「練習」画面（1～2小節目のみ使用）	★教師用PC（又はタブレット端末）を大型モニターとつないで提示。
展開 40分	■「六段の調」（冒頭）の3小節目を学習する。 ■「六段の調」（冒頭）の4～5小節目を学習する。 ■「六段の調」（冒頭）をゆっくりとしたテンポで通して演奏する。 ■各自タブレット端末のデジタル教材を使って、自分の苦手な箇所を練習する。	・「六段の調」（冒頭）－3小節目 ・「六段の調」（冒頭）－4～5小節目 ・「六段の調」（冒頭）－通して弾いてみよう ・生徒任意の項目	★教師用PC（又はタブレット端末）を大型モニターとつないで提示。 ★いろいろな奏法をデジタル教材で適宜確認をしながら進める。 ★各自のタブレット端末を見ながら練習。
まとめ 5分	■「六段の調」（冒頭）を通して演奏する。 ■ワークシートに今日の授業の自己評価と課題を記入する。	・「六段の調」（冒頭）－通して弾いてみようの「練習」画面	★教師用PC（又はタブレット端末）を大型モニターとつないで提示。

第四時

- ・学習内容：模範演奏と自身の演奏とを聴き比べ、表現の工夫をする。その後、グループ内で発表・評価し合う。
- ・めあて：より良い音色や響きを出すための工夫をしながら、「六段の調」（冒頭）を演奏しよう
- ・配布物：ワークシート「箏に親しもう 3」（ファイル名：k03_sheet3）

過程	主な学習活動と教師の働きかけ	デジタル教材	留意点
導入 5分	■本時の学習のめあてを確認する。 より良い音色や響きを出すための工夫をしながら 「六段の調」（冒頭）を演奏しよう ■第三時の復習として、「六段の調」（冒頭）を通して演奏する。	・「六段の調」（冒頭）－通して弾いてみようの「練習」画面	★教師用PC（又はタブレット端末）を大型モニターとつないで提示。
展開 40分	■「六段の調」（冒頭）の模範演奏を鑑賞し、自身の演奏と聴き比べ気付いたことをワークシートに記入する。	・「六段の調」（冒頭）－通して弾いてみようの「練習」画面	★教師用PC（又はタブレット端末）を大型モニターとつないで提示。

		■模範演奏のような箏らしい音色に近づけるために、個人練習を通じて表現の工夫をする。 ■グループ内で「六段の調」（冒頭）を発表し合う。 ■ワークシートに他の生徒の演奏について良かった点・改善すべき点を記入する。	・生徒任意の項目	★各自のタブレット端末を見ながら個人練習。
	まとめ 5分	■ワークシートに箏授業全体の自己評価と感想を記入する。		



「Smart Education System by Yamaha」のWebサイトでは授業づくりに役立つ授業モデルや掛図などの素材を無料でダウンロードできます。ブラウザで動作するデジタル教材の無料体験版もご用意しておりますので、お気軽に授業でお試しいただけます。ぜひご活用ください。

無料の
授業モデルやデジタル素材を
もっと活用
してみませんか？

「Smart Education System by Yamaha」のWebサイトはこちら！

yamaha ses

検索

<https://ses.yamaha.com/>

「Smart Education System by Yamaha」のお役立ちコンテンツ

新型コロナウイルス感染
拡大防止に配慮した
音楽の授業って…？



学校の新しい生活様式における
音楽授業や行事のアイデアは
こちらでご紹介しています。

音楽の指導でお悩みごと
はありませんか？



先生方のお悩み解決の
ヒントはこちらでご紹介
しています。